

就職みらい研究所

2020年3月10日
 株式会社リクルートキャリア

【2020年卒 TOPIC】 インターンシップの選考に通過しなかった学生の約8割が その企業の採用選考を受けない。その背景は？

株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：小林 大三）のよりよい就職・採用の在り方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：増本 全）は、大学生・大学院生を対象に調査を実施しております。本リリースでは、「就職プロセス調査（2020年卒）内定状況（2019年5月1日時点）」にて聴取した「インターンシップの選考の経験と採用選考を受けなかった経験の関係」についてレポートいたします。

インターンシップの選考の合否が採用選考に影響すると考える学生。理由は「何となく」

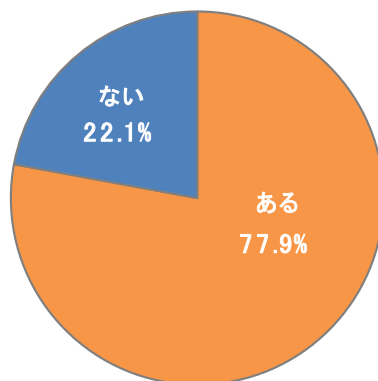


所長 増本 全

インターンシップの選考に通過しなかった企業の採用選考を受けなかった経験がある学生は、77.9%。また、就職志望者のうち「インターンシップの選考結果が、採用選考に影響があると思う」学生は64.3%。その理由を尋ねたところ、「何となく自分がそう思っているから」が56.5%と最も高くなりました。さらに、「影響はないと思う」学生も62.4%が「何となく自分がそう思っているから」と回答しました。一方で、企業を見るとインターンシップの実施目的のうち、「採用に直結したものとして実施」は1割強。最も高いものは「仕事を通じて、学生に自社を含め、業界・仕事の理解を促進させる」で約9割でした（就職白書2019）。つまり、企業の意図が学生に伝わっていないため、インターンシップの位置づけが学生各々の解釈にゆだねられてしまっています。企業の人事担当者から、「インターンシップの選考にもれた学生が採用選考時に応募してくれない」という悩みを聞きますが、学生側にどうとらえてほしいのかをしっかりと説明するなど、理解してもらう努力が必要です。 ※文中の数値はすべて大学生のみ

インターンシップの選考に通過しなかった企業の採用選考を受けなかった経験

大学生_全体（就職志望者・インターンシップの選考に通過しなかった経験「ある」回答者/単一回答）※大学院生除く



【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルートキャリア 広報部 社外広報グループ
 TEL：03-3211-7117 MAIL：kouho@waku-2.com

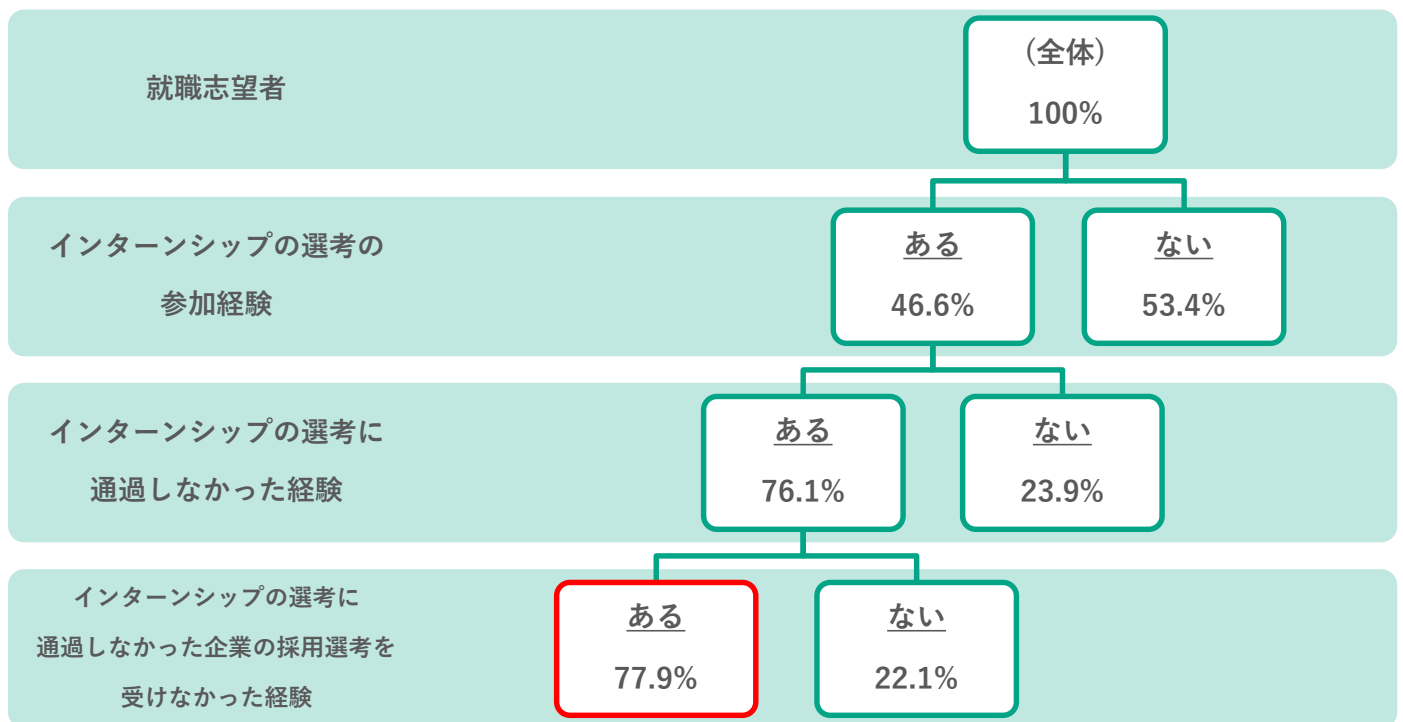
インターンシップの選考の経験と採用選考を受けなかった経験の関係

インターンシップの選考に通過しなかった企業の採用選考を受けなかった学生は約8割

- ・就職志望者のうち、インターンシップの選考の参加経験がある学生は46.6%であった。また、そのうちインターンシップの選考に通過しなかった経験がある学生は76.1%であった。
- ・「インターンシップの選考に通過しなかった経験がある」学生に「インターンシップの選考に通過しなかった企業の採用選考を受けたか」について聞くと、「受けなかった経験がある」と回答した学生は77.9%であった。

インターンシップの選考の経験と採用選考を受けなかった経験の関係

大学生_全体（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



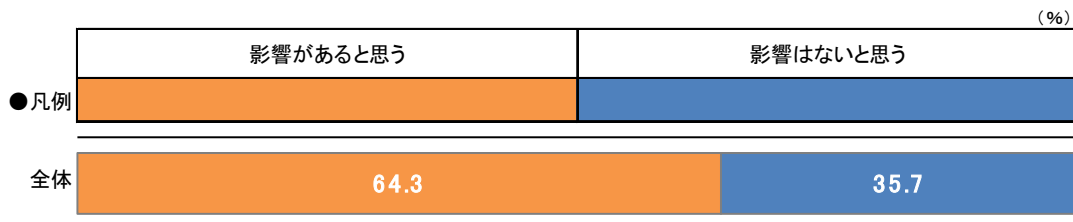
インターンシップの選考結果は、採用選考に影響がある・ないと思う割合とその理由

インターンシップの選考結果が採用選考に「影響があると思う」理由は「何となく」

- ・インターンシップの選考結果は、「影響があると思う」割合が64.3%、「影響はないと思う」割合が35.7%であった。
- ・その理由を聞くと「影響があると思う」学生は「何となく自分がそう思っているから」(56.5%)、「就活情報サイトの記事で見かけたから」(26.0%)、「知人(友人、先輩等)から聞いたから」(19.8%)の順で高かった。
- ・「影響はないと思う」学生は「何となく自分がそう思っているから」(62.4%)、「企業の人事担当者から聞いたから」(19.3%)、「就活情報サイトの記事で見かけたから」(15.4%)の順で高かった。

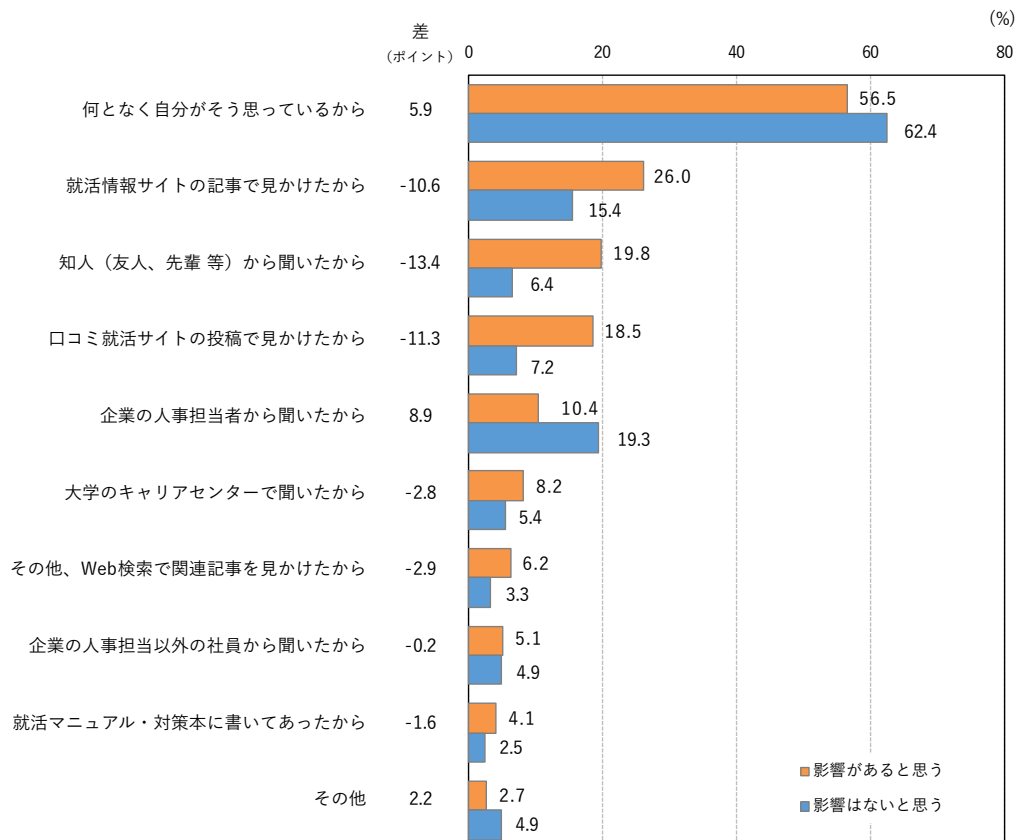
インターンシップの選考結果が採用選考に影響がある・ないと思う割合

大学生_全体 (就職志望者 / 単一回答) ※大学院生除く



インターンシップの選考結果は、採用選考に影響がある・ないと思う理由

大学生_全体 (就職志望者・影響がある・ないと思う別 / 複数回答) ※大学院生除く



※差 (ポイント) = 「影響はないと思う」 - 「影響があると思う」

企業のインターンシップの実施目的

企業がインターンシップを行う目的は、学生の業界・仕事の理解促進が最も高い

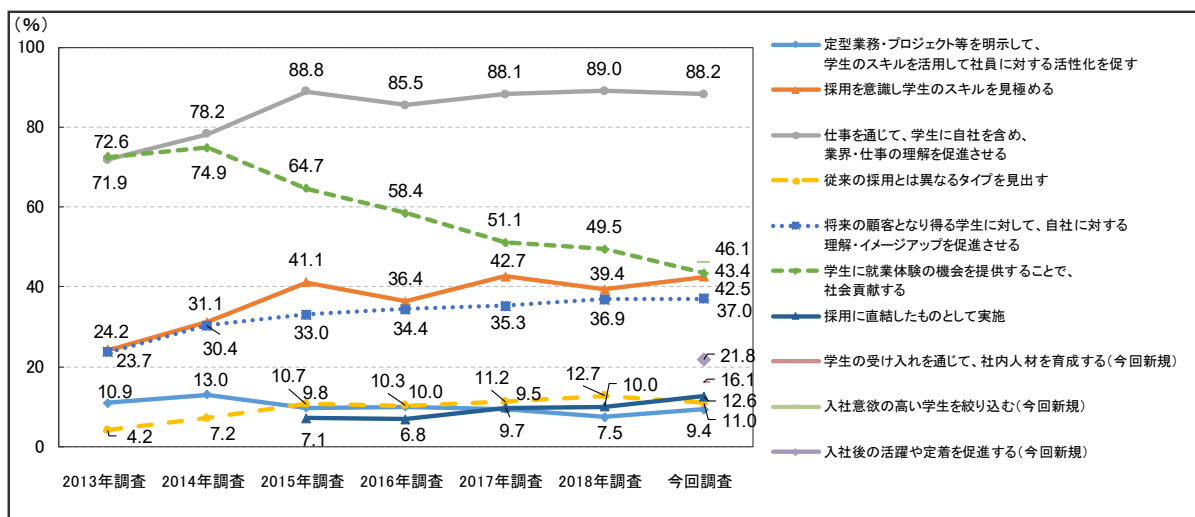
- ・企業がインターンシップを行う目的として最も高かったのは「仕事を通じて、学生に自社を含め、業界・仕事の理解を促進させる」で、88.2%。「採用に直結したものとして実施」は12.6%であった。

参考データ

インターンシップの実施目的（「就職白書2019」より）

インターンシップ実施企業[実施予定を含む] / 複数回答

※「その他」「特に目的を設定していない」は、グラフでは割愛。



調査概要

- 調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する
調査方法 | インターネット調査
集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体をもとに、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2020年卒：2019年5月1日時点

- 調査対象 | 2020年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2020』（※）にて募集した調査モニターに登録した学生6,397人（内訳：大学生5,269人/大学院生1,128人）
調査期間 | 2019年5月1日～5月8日
集計対象 | 大学生 1,676人/大学院生 548人
※リクナビ：株式会社リクルートキャリアが運営している、就職活動を支援するサイト
<https://job.rikunabi.com/2020/>

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路のすべて）」の回答状況をもとに、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者 + 志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

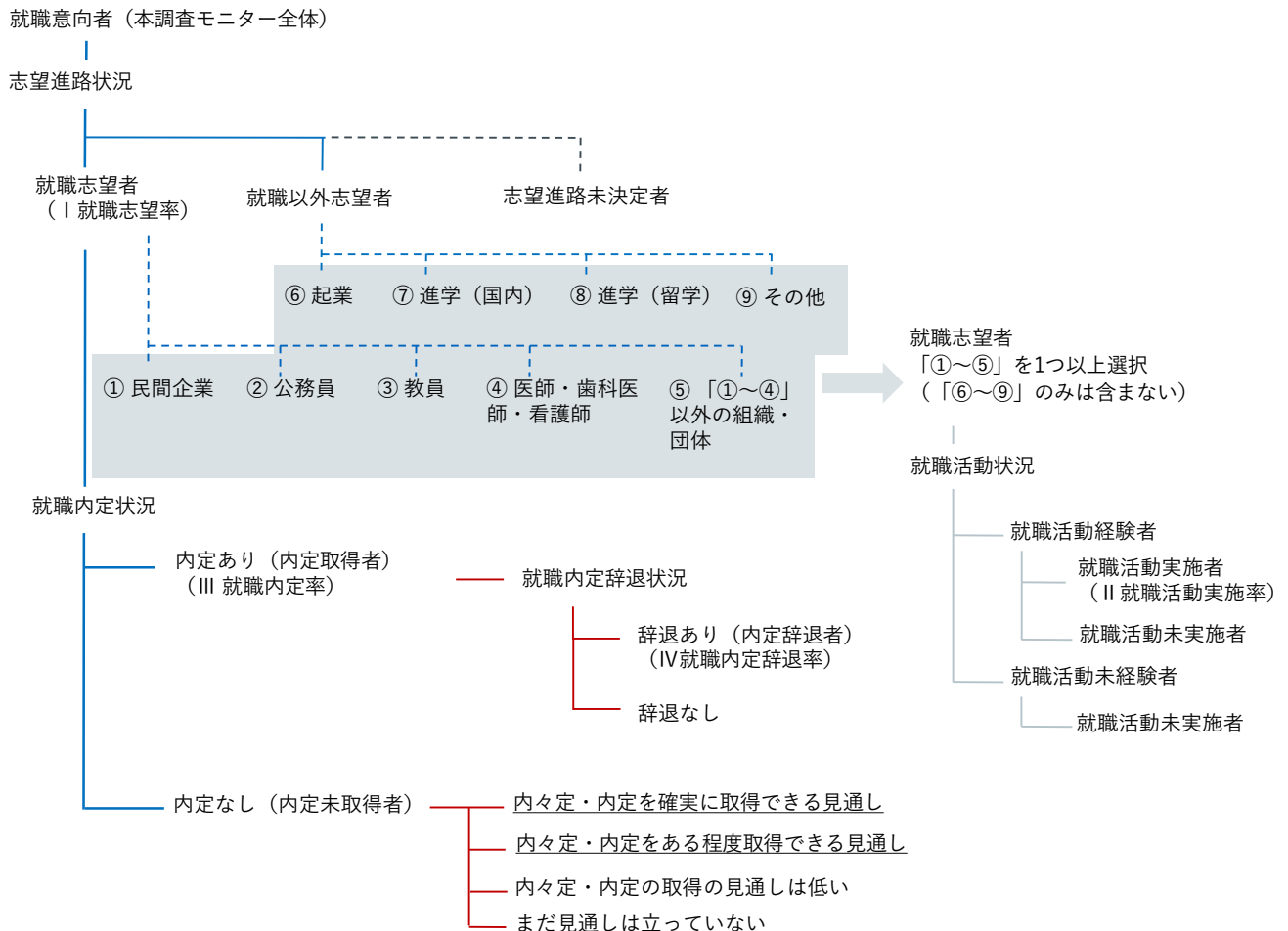
本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法> 【時点：「当該月1日時点」】

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

- 就職意向者 = 当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
- 就職志望者 = 当月、就職を志望している者
- 就職活動実施者 = 当月、就職活動を実施している者 (※)
- 就職活動経験者 = 当月までに就職活動の経験がある者
- 就職内定取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験のある者
- 就職内定未取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
- 進路確定者 = 当月、進路が確定している者
進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
- 就職確定者 = 当月、就職先が確定している者
- 就職内定辞退者 = 当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者